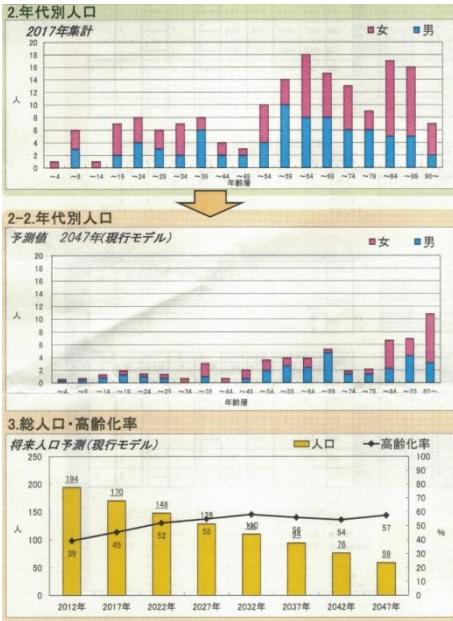


①民谷地区の現状 - 人口・拠点施設



人口：170人（2017年住民基本台帳）
高齢化率：45.3%（〃）
商店：なし
学校：なし
郵便局などの公共施設：なし
中心集落（吉田）への距離：約5 km

- 担い手組織

- ・ H23年度末 民谷分校廃校
 - ・ H26年 民谷地区振興協議会設立
福祉、地区内交流、地区外交流等を中心に活発に活動
- 平成27年度末に、民谷地区計画（平成28～32年度）を策定
- ・ 暮らしサポート
 - ・ 防災・環境保全
 - ・ 交流・定住促進

民谷地区計画（平成28～32年度）で挙げられた取組みのうち、

- ・ 新たに着手する活動は9項目。特に「攻め」の事業が今後の課題。
- ・ 28年度の事業計画に載っていない活動もある。

②民谷地区の課題

- ❑ 地区計画に盛り込まれた新しいテーマを、担い手が不足する中でどのように実現するか？
- ❑ 自主組織だけで地域づくり活動を抱え込まず、活動の担い手を多様化・分散化する必要がある。

③支援状況

機運醸成・人材育成

- (1) 後継者会の再組織化
- (2) 宇山地区有志グループ「里山照らし隊」の活動支援

計画・体制づくり

※ 交流センターを中心に実行されている。

実践活動

- (1) 防災体制整備
- (2) サポーターズクラブの立ち上げ
- (3) 【経済活動活性化】集落営農連携支援
- (4) 若者のチャレンジ支援
・ 有償ボランティア活動

④成果見込み

(1) 体制づくり：

民谷地区振興協議会以外の地区の担い手として、

- ・ 再組織された「民谷若い者会」
- ・ 宇山地区有志の「里山照らし隊」

の活動が活発に行われている。

(2) 計画づくり：

交流センターを中心に自律的に行われ、5カ年計画に挙げられた新規事業にも徐々に取組みが進められている。

(3) 実践活動：

- ・ 買い物支援：福祉部会の活動で移動販売の誘致に成功。
- ・ 若者のチャレンジ支援：若い者会や里山照らし隊の活動。
- ・ 有償ボランティア活動：里山照らし隊による活動開始。
- ・ 防災体制整備：自主防災組織が立ち上がった。
- ・ サポーターズクラブの立ち上げ：H30年度に本格検討・運用開始予定。
- ・ 民谷・吉田地区集落営農組織の連携：連携組織が設立された（H30年3月）。

⑤残る課題

- (1) 新たに始まった活動を軌道に載せること
- (2) 担い手グループのさらなる育成
- (3) 地域住民参画機会の拡大
(住民意見交換会等による盛り上げ策)

- (4) 地区内の新たな経済活動
(竹炭蓄電器開発の事業化、農業の維持・活性化)

民谷地区における小さな拠点づくり
= 「住み続けられる」環境整備とは？

【生活機能】 ●災害時の自助・共助
●伝統文化の維持・継承

【生活交通】 ●買い物・移動支援

【地域産業】 ●小さな経済活動づくり
●農業の維持・活性化の仕組みづくり

この取組みが
まだ弱い

「地区内に経済活動が必要」という声はよく聞くが、「誰が」「何を」するのか、具体的でない。

地区内にすでにある事業を活かした産業・雇用の場づくりを中心に、まずはどのような産業振興策を地域として考えていくのか、営農組織や住民を巻き込んだ幅広い議論が必要。

総括

- ◆ 交流センター・両部会を中心とした計画立案・実行体制はできている。今後は、自主防災、買い物支援、外部サポーターとの関係づくり（民谷サポーターズクラブ）など、始まった活動を軌道に乗せていくことが重要。
- ◆ その際、協議会や一部のメンバーだけに負担が集中しないよう、様々な活動を行う担い手グループを育成することが大事。
- ◆ 地区住民の参画意識をより一層高めるため、住民意見を集める場（意見交換会やアンケート）の実施が期待される。
- ◆ 新たな経済活動づくりについては、集落営農組織等の地区内の諸団体と連携して議論の場を作り、すでにある事業を活かした産業・雇用の場づくりを中心に、地に足のついた議論を進めることが大事。